



学 校 通 信

平成28年度 第 8 号

平成28年12月 1日

練馬区立開進第三小学校

校 長 土 屋 信 行

自 分 の 役 割

校長 土屋 信行

先日開催しました音楽会には、多数の方のご鑑賞をいただき、誠に有り難うございました。皆様の大きな拍手、温かい眼差し、優しい言葉かけは、きっと子供たちの心に深く刻まれ、今後の新たな活動のエネルギーになったことと思います。

当日の挨拶でも述べさせていただきましたが、音楽会の本番に至るまで、子供たちは一生懸命練習に励んできました。音楽の時間はもちろんのこと、休み時間にも声をかけ合い練習に取り組む姿が見られ、各学年それぞれの演奏がいろいろな場所から聴こえてきました。きっとご家庭でも練習する姿が多く見られたことと思います。そして、日を追うごとに演奏の完成度は高くなり、本番につながっていったのです。

この間、一人一人の担当する楽器や歌のパート等が決まっていった訳ですが、自分の思い通りにならなかった子もいたことでしょう。その時、それぞれの心には複雑な思いが駆け巡り、だれかに愚痴の一つもぶつけたかもしれません。それを一番多く受けとめ、励ましてくださったのは、きっと保護者の皆様だったのではないのでしょうか。

仮に、最初は前向きに取り組めなかった子がいたとしても、皆様の支えのお陰で気持ちを切り替え、自分に与えられた役割を果たそうと努力を重ねることができたのでしょう。それがなければ各学年のあの素晴らしい演奏は生まれなかったと思います。本当に有り難うございました。

多くの人が集まれば、自分の思い通りにできることは少なくなります。でも、人はそこを我慢して自分の役割を果たそうと努力しなければなりません。これは、一生続く営みです。そして、これによって相手意識も生まれ、心豊かな人に成長できるのだと思います。

私は、その基礎を学ぶのが小学校だと考えています。校長として本校に着任して以来、何度も同じ話をさせていただいていますが、学校は、お金を払ってサービスを提供してもらい「楽しい」と感じる娯楽施設ではありません。多くの人の中で我慢と努力を学び、その中からあるいはその後得られる達成感や充実感、満足感を「楽しい」と感じる場なのです。10月の運動会や今回の音楽会で見られた子供たちの「いい顔」は、まさしく学校における楽しさを味わっている姿の象徴だと思います。

どんな時でも自分の役割をしっかりと果たすために、我慢と努力を重ねている本校の子供たちを私は誇りに思います。

